アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル　愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

ーあいなん音故地新ー　ここで、会おう

11月がきた。ここでも何度も話してきた、年に一度のワンマンライブの開催月。

初めて開催したのが20年前のこと。この間、新型コロナウイルス感染症の影響で3回お休みしたから、今年は17回目。17回って…20年で…、ね。感慨深いとはこのことやね。笑

これは『続いたこと』じゃなくて、『続けてきたこと』。時の流れに身をまかせ流れ着いた先が20年先…だったわけじゃない。自分の音楽が無意味なんじゃないかと落ち込んだときもあったし、漕いでも漕いでも前に進まんときもあった。

数日前、もう何年もこのライブに足を運んでくれとる方からメッセージが届いた。

『歌い続けてくれてありがとうございます。日々色んなことがあっても、年月が経って色んなことが変わっても、あの頃に戻れる場所です。』と。



いつのまにか私だけの場所じゃなくなっとった。それぞれの時間の中に、私の歌が存在していることが嬉しい。いつまでやれるかはわからんけど、ライブ当日、私はきっとこう言うよ。『また来年、ここで会おう』

（テノヒラkiku）

図書だより

御荘文化センター図書室より

“11月の新着図書ピックアップ”の紹介

【バイリンガル童話】
『ゆかのはつゆめ　ーふじニたか三なすびー』
ゆうあ（作・絵）／英智舎（発行）

初日の出、お雑煮、東西お笑い、書初め、お年玉、そして初夢。日本には古くから、新年最初に見る夢「初夢」で一年の吉凶を占う風習があります。中でも「一富士、二鷹、三茄子」は最も縁起の良い初夢として知られています。これは作者が小学2年生のお正月に見た、奇跡のような初夢の物語。夢見ることの素晴らしさ、大切さを日本語と英語のニカ国語でお楽しみください。



【小説】
『春までのセンセイ』
早見 和真（著）／双葉社（発行）

私立稜花女学院中学校3年E組。新年度の担任は加賀美秀彦という中年の国語教師だ。先生は言う。「今日1日だけを大切に生きよう」、「自分の頭で考えて行動してほしい」。最初は冴えないと思っていたが、先生の言葉はなぜか心に響いてくる。そうした中、先生が病気で学校を辞めるという噂が流れる。生徒たちが悩み葛藤する姿は尊く、先生の命がけの言葉は心に響く。



御荘文化センター図書室では、毎月「図書室だより」を発行しています。
ピックアップ図書以外の新着図書情報やそのほか新しい情報を皆さまに発信しています。町のホームページにも掲載していますので、ぜひご覧ください。

愛南町ホームページ